



## 「日本語の特徴」～漢字の「類義語」～

先週は第3学期の授業日初日でした。写真のようにどの教室でも、長い休みあけを感じさせないほど、子どもたちは集中して授業に臨んでいました。また、小5以上の学年は「百人一首大会」を行いました。

さて、今年も、日本語について考える予定です。これまでタイトルを「日本語は難しい」としていましたが、難しさが強調され、覚えようという意欲がなくなってきそうなので、「日本語の特徴」と替えました。せっかくですから、今回はその「特徴」に関わる語句（「類義語」）を取り上げます。



〈授業の様子(第3学期授業日初日)〉

私達が指導に当たる子ども一人一人には個性があります。今回はその個性の違いをどう表現するかという問題です。すぐ浮かぶのが「特色」と「特長」、そして後者と同音語の「特徴」です。これら三つの語句の違いについて考えます。

まず、これらのどの語句にも「特」があります。「特」は副詞で“とくに”と用いるように、他と異なる点を強調する意味を持っています。“特有・特技・特産”などと使われます。この「特」に、それぞれ「色」や「長」「徴」が加わり、「特色」「特長」「特徴」の語句ができ上がっています。ですから、「色」「長」「徴」の漢字の意味に、それらの違いを考えるヒントがあります。

まず、「特色」の「色」です。これは字訓のとおり、本来“いろ”のことですが、“いろどり”の意味になり“おもむき・ようす”を表す言葉として用いられます。“異色タレント”や“郷土色”の「色」です。何となくプラス評価のイメージがありますが、本来は、評価を伴う言い方ではありません。他と異なる点だけの強調です。

これに対し、「特長」の「長」は、字訓どおり「長(た)ける」の意味です。他と異なるという観点からみた“すぐれた点”のことです。今、目の前に辞典がありますが、その帯に“三大特長”の文字があり、簡潔によさ(長所)がアピールされています。

すなわち、「特色」は、他と異なる点だけの強調であり、「特長」はそこにより評価が伴うところが異なっています。

最後に、「特長」と同音語の「特徴」です。「徴」は“しるし”のことです。去年は、新天皇の即位がありましたが、「徴」は日本国の“象徴”のように用いられます。この「徴(しるし)」は、評価を伴わない点で「特長」とは異なります。

以上を、整理すると、同音語としての「特長」と「特徴」は他と異なる点で共通していますが、評価を伴うか否かの点で使い分けをします。そして、評価を伴わない点では、「特徴」と「特色」は同じ立場にあります。ですから、「特徴」と「特色」は同義語となります。

以上のことから、子どもをはじめ人間の個性は人格尊重の点からよい評価を伴いますから、一般的に「特長」で表します。一方、犯人のような罪を犯しよくない評価を伴う場合は「特徴」を使います。

漢字の使い分けを考えた際、「漢字一つ一つの意味をしっかりと理解していれば問題はない」と述べました。今回の「類義語」に関しても同様です。が、決して容易だと言えそうにはありません…。おっと、タイトルを替えたのでした。日本語の難しさではなく、特徴としてとらえ、また一つ覚えたいと思います。